

ハロ

1989年(平成元年)

12月10日

事務局:

2丁5-1(保育園)

☎98-4500



最優秀賞は『白雪姫』

♪ 第三回赤坂台こどもカーニバル

赤坂台校区福祉協議会主催の第3回「赤坂台子どもカーニバル」は、九月一七日、児童一九グループ六五〇名、お世話いただく大人二五〇名が参加し、赤坂台小学校グラウンドで盛大に行われました。

小学校からも校長先生はじめ数名の先生からお手伝いいただきました。仮装行列や綱引き、ジャンボクイズで楽しいひとときを過ごしました。仮装行列の最優秀賞は三丁南子供会「白雪姫」、優秀賞はつくし子供会「つくしソーラン節」と学保育さくらんぼくらぶの「インディアン祭り」で、為村福祉協議会長から賞状が贈られました。

この催しは、赤坂台校区が堺市社会福祉協議会のモデル指定をうけて行っている青少年育成事業のひとつです。また、朝日生命厚生事業団の助成金一五万円を大阪府でただ一カ所いただきました。

創刊号によせて

為村 収 二郎



このたび赤坂台校区福祉協議会の機関紙「ハロー」を発行することになりました。福祉の町づくりにかけない住民の方々の参加を「ハロー」と気軽によびかけていきたいと思っております。

校区内の必要な情報のお知らせの提供や、住民の方々の意見の広場に出来ればと考えています。

赤坂台の町づくりもすでに十余年、着実に発展してまいりましたが、社会も大きく変わりつつあります。福祉の充実した町づくりに向けて「ハロー」も大いにお役にたちたいと願っています。
(赤坂台校区福祉協議会長)

赤坂台校区福祉協議会とは

赤坂台校区福祉協議会は、住みよい福祉の町づくりをめざして、昭和五四年に設立され、校区内の団体・組織・関係機関の代表が会員です。

一口でいえば住みよい町づくりをすすめる実行委員会です（他の校区では福祉委員会ともいいます）。どの校区でも慣例的に校区社協の略称で呼ばれています。

赤坂台の校区社協について簡単に紹介しましょう。

青少年健全

育成活動

赤坂台校区でも青少年の非行問題が増えています。そして人口中の子供の比率が堺市の平均より高いという特殊事情もあります。

青少年の健全育成には学校や家庭とならんで地域全体の関心と協力が必要です。

堺市社会福祉協議会では毎年全市内から四つのモデル校区を指定していますが、赤坂台校区も昭和六二年度からその一つに選ばれたので、校区社協では三年計画で青少年健全育成事業にとりくみ、子供カーニバル事業を主催して延べ子供三五七〇名、大人七〇〇名の参加をえたのをはじめ、関係各位の協力をえて「明るい町づくりは子供から」の運動を進めてきました。

今後とも青少年の健全育成に力を入れたいと思います。

高齢者

身障者対策

日本社会の高齢化は急速で三〇年後には四人に一人が六五歳以上になります。赤坂台校区の高齢者人口は四パーセント強で、堺市全体の八・三パーセントより低く、それだけに今後は急速に高齢化していくことが予想されます。

国や地方自治体などの対策が必要なのはいうまでもありませんが、行政の手が及ばないところは、地域で解決しなければなりません。

老年になって、体力の衰えや病氣、ねたきり、独り暮らしなどになったとき、老人ホームや病院に直行するより、できるだけ家族と一緒に、住みなれた地域で暮らしたいと願う人が多いと思います。

また、身障者やその家では大変な苦勞があり、介護者の高齢化にも悩んでおられることと思います。

これら高齢者や身障者には地域ぐるみで支援することが必要ではないでしょうか。

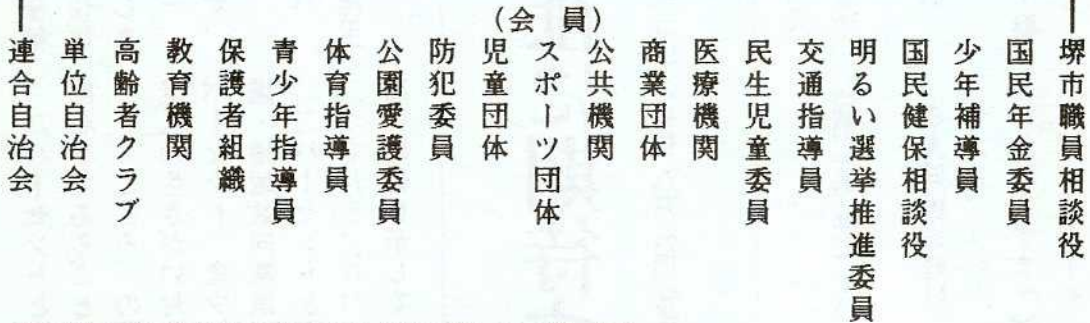
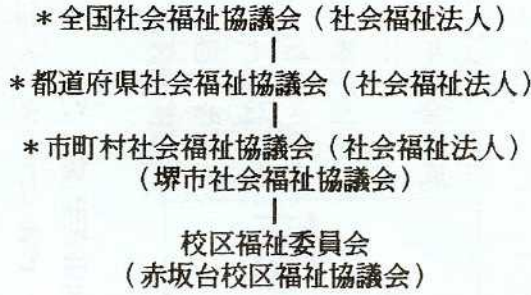
買物や介護の手伝いなど地域の僅かな助け合いが、本人や家族にとっては大きな支えになるのです。

自分の老後を考えても、今から助け合いのネットワークをつくっておこうとする動きが各地で生まれているのはご承知のことでしょう。

校区社協では、住民のボランティア組織づくりを進めて気軽に助けられたり助けたりできる町づくりをめざしていきます。いざれ計画をお知らせする予定ですので、皆さんのご理解とご協力を、よろしく願います。（一）

社会福祉協議会
組 織 図

*印は社会福祉事業法により必置



赤坂台校区福祉協議会役員

会長	為村収二郎	5-22-3	☎98-6606		
副会長	中辻雅郎	4-7-4	☎98-9828	理事	河原悦子 1-14-1 ☎97-7682
〃(編輯)	佐藤祐弘	2-5-1	☎98-4500	〃	辻林 茂 6-14・12-102 ☎97-5863
会計	足立成男	郵便局	☎99-2600	〃	早川泰史 6-25-2 ☎91-9571
監査	桜井照美	2-2-1	☎98-3030	〃	毛利敏彦 3-7-5 ☎99-9045
〃	乾 幸雄	マーケット	☎98-2322	〃	山内ゆき子 6-14・5-105 ☎98-1085

民生委員改選

	村瀬貞子	1丁1-3	☎96-3536	担当1丁
	武田佳子	6丁4-8-103	☎98-7818	〃 2丁・6丁14-15
今年は3年に1度の全国の	和歌宏允	3丁1-2	☎96-1351	〃 3丁南・3丁9番
民生児童委員の改選年で、赤	佐藤祐弘	2丁5-1	☎98-4500	〃 3丁9番
坂台校区では右の9名の方が	城 素子	2丁5-3-1402	☎98-6622	〃 3丁9番
12月1日付けで厚生大臣から	石上 直	3丁10-6	☎98-6655	〃 3丁9番
委嘱をうけられました。	中辻雅郎	4丁7-4	☎98-9828	〃 3丁9番・4丁
生活上の問題、児童福祉問	為村収二郎	5丁22-3	☎98-6606	〃 5丁
題などでお困りのことがあ	梶垣心一	6丁3-2	☎98-7852	〃 6丁
れば、お気軽にご相談ください。				(民生児童委員会事務局 赤坂台保育園 ☎98-4500)

校区社協は、昨年から今年三月にかけて赤坂台校区住民社会福祉意識調査を実施しましたので（回答三〇四名）、主な結果をお知らせします。

ねたきり老人

の援助要望

八パーセントと住民の最大関心事であることが判ります。「こころ」の問題では、老人の生きがい対策二八・六パーセント、青少年の仲間意識・地域共同意識の育成五四・二パーセントと多く、この二つで八二・八パーセントの高い数値を示しています。

赤坂台校区には一四〇人も障害者がおられるにもかかわらず、今さかんに叫ばれている「ノーマライゼーション」の障害者がおられるにもかかわらず、今さかんに叫ばれている「ノーマライゼーション」

福祉に期待するのは

校区の社協福祉意識調査本頁から

校区福祉問題で援助を必要とするものは、独居・ねたきり老人対策が三六・八パーセント、青少年健全育成が、三二・二パーセント、この二つで七〇パーセント近くに達しています。

病と気老人二五%

パーセント、今後の課題としなければなりません。

車公室日に不満

環境問題では、駐車場・駐車違反・暴走族対策が六五・

老人同居家庭は二二・一パーセント、うち六一・四パーセントはまずまず健康、しかし二四・五パーセントが寝た

ボランティアが四割も

福祉活動にボランティア参

加したいとの回答が四二・一パーセントの高率というたいへん心づよい結果がでて、われわれ校区社協役員一同は大いに勇気づけられました。校区社協のボランティア組織計画には是非ご参加ください。

最後に調査に協力いただいた校区連合自治会はじめ各位にお礼申し上げます。（S）

アンケート配布数	四四三
回収数	三〇四
回収率	六八・二%
回答者年代別	
二〇歳代	二・六%
三〇歳代	二九・三%
四〇歳代	三六・三%
五〇歳代	一三・一%
六〇歳代	四・三%
七〇歳代	八・五%
不明	六・〇%
計	一〇〇%

ボランティア



会員募集

校区社協では、高齢者対策や身障者対策に欠かせない地域の助け合いグループをつくりたいと考えています。

少しの時間をさいて、校区内の高齢者家庭や身障者家庭で日常困っておられる問題を、ボランティアでできる範囲で手助けするグループです。

経験のない方、自信のない方も皆で話しあい、勉強したり、研修をうけたりしながら、安心して実行できるように工夫したいと思います。

やってみようかというお気持ちの方は、どうか校区社協の役員までご相談ください。ようお願いいたします。ある程度の人数がそろったら、グループづくりに取りかかる予定です。

また、ボランティアの手助けを希望される方や、ご近所でそのようなお宅をご存知の方も校区社協までご連絡ください。

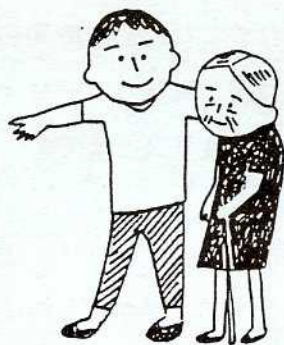
ある実例

これは、一〇月二四日の校区在宅ボランティア・リーダー研修会（堺市総合福祉会館）のときに配布された参考資料を原文のまま転載したものです。なお、この研修会には、赤坂台校区社協から早川さんと山内さんが出席しました。

校区のボランティアで通院を支える

Aさん（六〇歳後半、男性）は、アパートの一階で一人暮らしをしている。夏の間は食事が心配だが、近所に迷惑をかけるわけにもいかないと、名古屋に住む息子が弁当屋から

当屋から食事を届けさせていた。Aさんは買物にも行かず、普段もほとんど家から出ないので、地域でもAさんの存在に気づいていなかった。



弁当屋が心配に思い、知り合いである校

◎福祉豆知識「ノーマライゼーション」

デンマークのハ知恵おくれの親の会が提唱し、今では福祉施策の基本理念になっている。障害者や老人など社会的不利をもっている人達を、そのままで受け入れ、普通の人として生活できるように処遇・教育・訓練などすべてを提供することであって、そのために健康な市民は、何をなすべきかを真剣に考えなければならない。（S）

区福祉委員に連絡した。

連絡を受けた校区福祉委員は、福祉委員会内のボランティア企画委員会にAさんのケースを報告。企画委員が弁当屋と一緒にAさん宅を訪問し、心臓が悪いこと、軽い痴呆症状があること、外出しなためため医者にも行きにくいことなどを知る。企画委員会でAさんのケースについて検討した結果、校区内のボランティア二、三人でローテーションを組み、通院介助を始めることにする。

その後、本人の病状と生活状況から入院が必要と判断、Aさん・息子とも承諾したため、通院先の病院に入院。

赤坂台福祉情報

老人人口4.34%

平成元年3月31日現在で、赤坂台住民1万1189人のうち、65歳以上は486人で4.34%です。なお堺市全体では8.27%です。

赤坂台で「寝たきり老人見舞い金」の申請は9月1日現在で25人です。

障害者134人

赤坂台の障害者は8月8日現在で134人（内、男71人・女63人）です。

1級障害者は28人、内訳は肢体障害11・聴覚障害1・内部障害16。

2級障害者は23人、内訳は肢体障害16・視力障害1・聴覚障害5・内部障害1。

3級障害者は33人、内訳は肢体障害23・音言障害1・視力障害3・聴覚障害1・内部障害5。

4級以下障害者は50人、内訳は肢体障害35・音言障害1・視力障害1・聴覚障害5・内部障害8。

また内部障害30の内訳は、膀胱2・呼吸器7・心臓15・腎臓5・肛門1です。（福祉事務所調べ）

『障害福祉のしおり』

— からだの不自由な人たちのために —

堺市民生局福祉部がだした小冊子、障害者の相談の窓口や対策についてくわしい説明がのっています。この「しおり」についての問い合わせは泉北福祉事務所：電話99-5194まで。大阪府福祉部も『福祉のてびき』の「からだの不自由な人たちのために」と「ちえおくれの人たちのために」とをだしています。この「てびき」についての問い合わせは府障害福祉課：電話06-941-0351（内線2452）まで。

『高齢者のしおり』

堺市老人福祉課がだした小冊子で、寝たきりやひとりぐらし老人の対策などについてくわしく説明しています。問い合わせは、泉北福祉事務所：電話99-5131まで。

家庭奉仕員・医療ヘルパー・日常生活用具の給付や貸だし・車いす貸だし・ひとり暮らし老人一声訪問・ねたきり老人一時あずかり・福祉電話・入浴サービス・紙おむつ給付など。